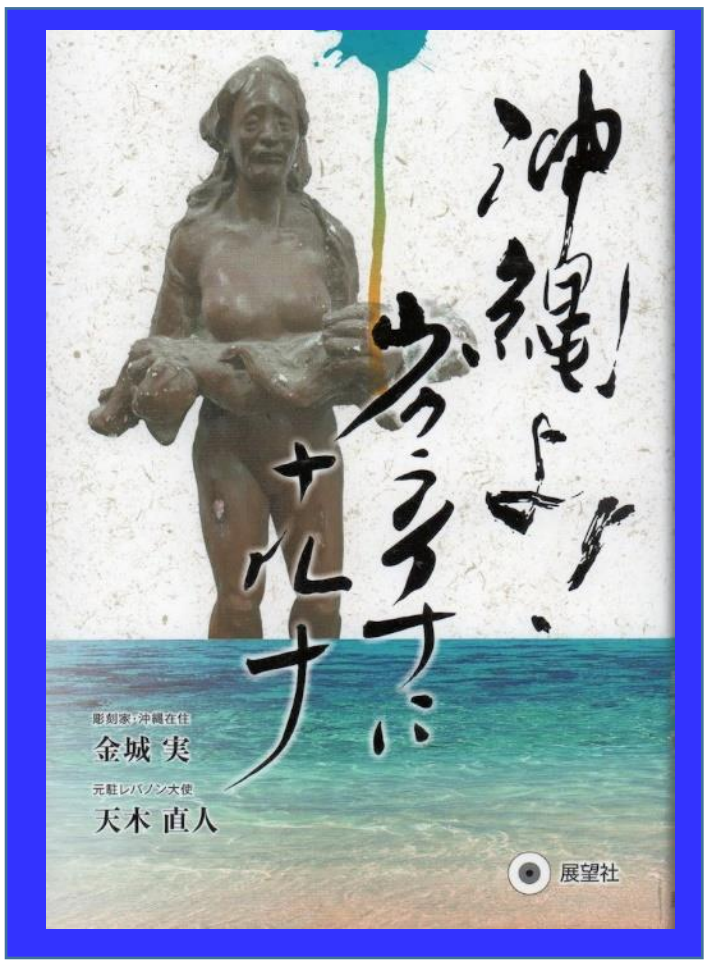
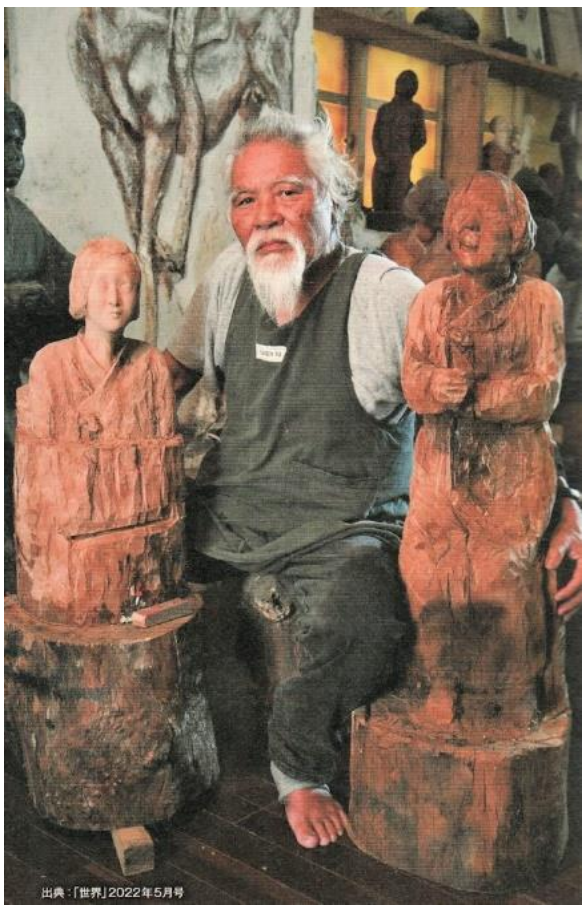
ASSETS OF OUR LIVES

2022 年 7 月 14 日　第 36 巻 13-2 号　特別版

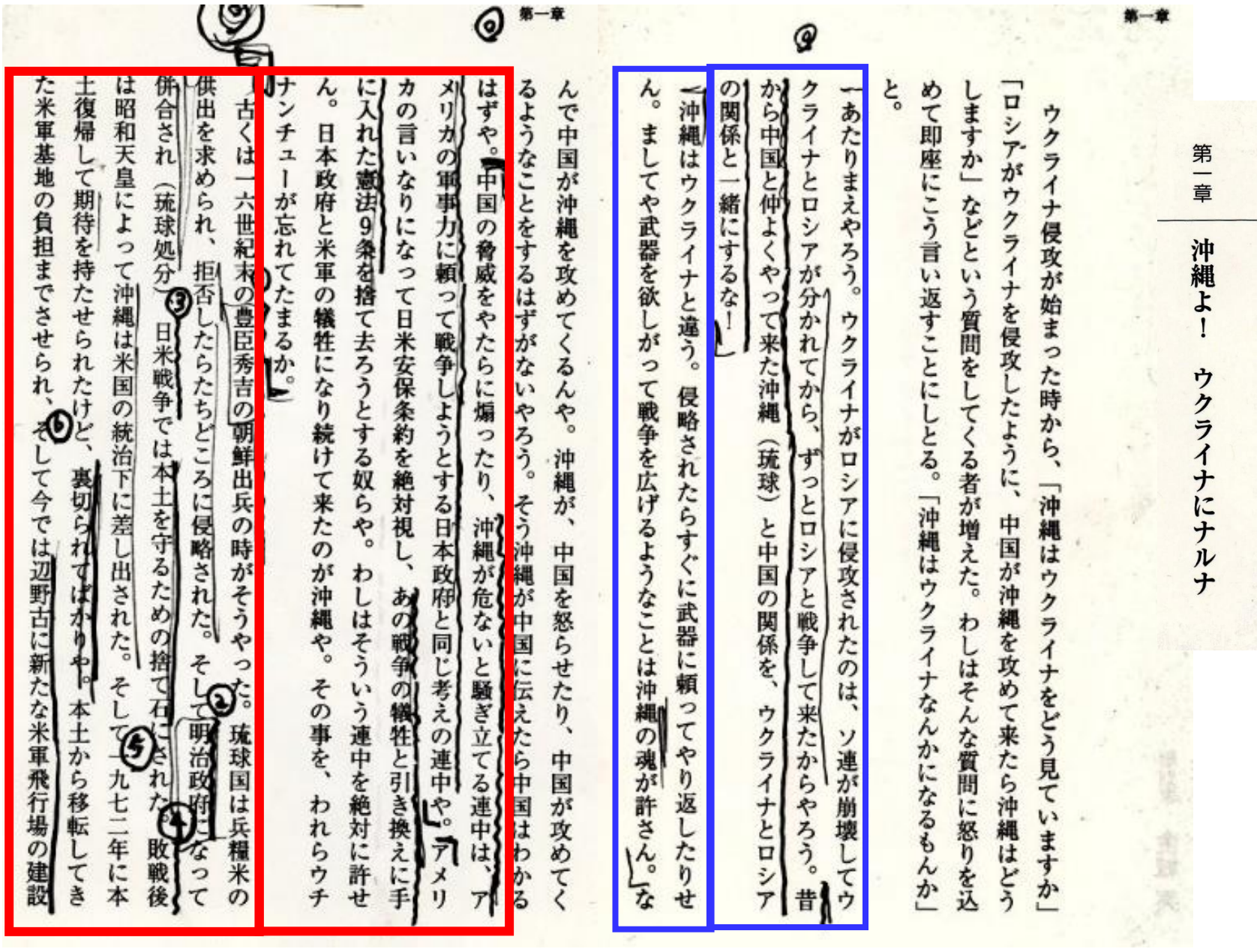
≪確かな知識や教養を身につけ・豊かな心を育て・充実した人生を!!≫

ロシアと欧米の戦争がウクライナを戦場として続く中、戦後の沖縄の歴史の中の英雄のひとりである彫刻家金城実氏と、30 年以上前から日本の国際政治の舞台でのアメリカ偏重の愚かさと危険性を指摘してきた元外交官の天木直人氏との共著による「沖縄よ！ウクライナにナルナ」という本が出版されました。その最初の部分を張り付けました。今年の雑誌「世界」5 月号に、金城さんの写真の特集がありましたのでそれも張り付けています。沖縄の抱えている問題の解決＝日本の存続＝世界平和という把握がなされており、この本は「あなた達の将来を明るく照らしてくれる本」になるでしょう。沖縄のこれまでの悲劇とその可能性について、最初の部分だけでも読んでください。張り付けやすいように、Ａ３用紙を縦向きにしました。この本の多くを占める天木直人さんという真面目で素直な外交官の記述を読むと、今の日本の本当の姿がよくわかります。まさに「目からうろこが落ちる」という感じがしますよ。





【上】　沖縄の悲劇を数々の彫刻で再現している金城さんとその作品（雑誌「世界」から）



第一章　沖縄よ！　ウクライナにナルナ

ウクライナ侵攻が始まった時から、「沖縄はウクライナをどう見ていますか」「ロシアがウクライナを侵攻したように、中国が沖縄を攻めて来たら沖縄はどうしますか」などという質問をしてくる者が増えた。わしはそんな質問に怒りを込めて即座にこう言い返すことにしとる。「沖縄はウクライナなんかになるもんか」と。

「あたりまえやろう。ウクライナがロシアに侵攻されたのは、ソ連が崩壊してウクライナとロシアが分かれてから、ずっとロシアと戦争して来たからやろう。昔から中国と仲よくやって来た沖縄（琉球）と中国の関係を、ウクライナとロシアの関係と一緒にするな！」

「沖縄はウクライナと違う。侵略されたらすぐに武器に頼ってやり返したりせん。ましてや武器を欲しがって戦争を広げるようなことは沖縄の魂が許さん。」なんで中国が沖縄を攻めてくるんや。沖縄が、中国を怒らせたり、中国が攻めてくるようなことをするはずがないやろう。そう沖縄が中国に伝えたら中国はわかるはずや。中国の脅威をやたらに煽ったり、沖縄が危ないと騒ぎ立てる連中は、アメリカの軍事力に頼って戦争しようとする日本政府と同じ考えの連中や。アメリカの言いなりになって日米安保条約を絶対視し、あの戦争の犠牲と引き換えに手に入れた憲法9条を捨て去ろうとする奴らや。わしはそういう連中を絶対に許せん。日本政府と米軍の犠牲になり続けて来たのが沖縄や。その事を、われらウチナンチューが忘れてたまるか。」

「古くは一六世紀末の豊臣秀吉の朝鮮出兵の時がそうやった。琉球国は兵糧米の供出を求められ、拒否したらたちどころに侵略された。そして明治政府になって併合され（琉球処分）日米戦争では本土を守るための捨て石にされた。敗戦後は昭和天皇によって沖縄は米国の統治下に差し出された。そして九七二年に本土復帰して期待を持たせられたけど、裏切られてばかりや。本土から移転してきた米軍基地の負担までさせられ、そして今では辺野古に新たな米軍飛行場の建設

日本人はテレビや新聞の情報をそのまま受け入れて、テレビが隠している「真実」を知ろうとしない。両親はその多くが仕事や子育てで精いっぱいで、政治の本当のことを知る余裕もないし、知ったからと言って具体的に行動する余裕もない。しかし確実なことは「次の時代はあなた達が動かしていく」ということである。この「沖縄よ、ウクライナにナルナ」というような、日本政府に虐げられた沖縄の人が書いたこのような、弱い立場の人が書いた真実を語る本を読んで、より賢くなって、次の時代をつくってください。（赤枠の中だけでもぜひ読んでください）

人骨が混った土のこと

を強行されている。政府は沖縄の犠牲者の霊が眠っている土まで海に投げ込んでるんやぞ。すべては、日米同盟を最優先する日本政府の責任や。」

「その日本政府がアメリカと一緒になって中国と戦い、再び沖縄を戦場にするようなことだけは、絶対に許せん。」「ええか、よく聞いてくれ。五〇年前、沖縄が本土復帰を喜んだのは、憲法9条を持った平和な日本に復帰できると信じたからやった。しかし、その日本が、沖縄の声を一切聞かず、アメリカの言う事ばかり聞いて再び沖縄を捨て石にするようなら、今度こそ、「沖縄のことはウチナン人が決める」、そういう自決権の確立に向けた運動を起こす。「沖縄の自治は神話にすぎない」そう切り捨てたキャラウェイ高等弁務官の事を忘れるウチナンチューはひとりもおらん。いまこそ自決の覚悟を見せてやろうやないか、という事になる。」

しかし、その動きは、日本を見限っていますぐ日本から独立するということではない。アメリカの言いなりになって中国と戦争するような日本なら、そんな日本を拒否し、沖縄が望む新しい日本、すなわち、この日本を、憲法9条を大事にして中国と仲よくして行く日本に、沖縄がつくり直して見せる、そういう動きや。」

「日本はまだ生まれ変われる。沖縄はそう信じている。「沖縄よ！　ウクライナにナルナ」と、わしが沖縄人に呼びかけるのは、そういうことや。アメリカに命じられるまま、中国と戦うような沖縄に、沖縄は決してならん。そんな事を沖縄は日本政府に絶対にさせん、そういうことや。そして、それはそのまま日本を助けることになる。行き詰まってどうにもならなくなった日本を、明るい、希望の持てる日本にしようやないか、その事をわしはウチナンチューに向かって言うだけやなく、ヤマトンチューに向かって呼びかけたいのや。そしてヤマトンチューに、「その通りや！　よくぞ言ってくれた金城さん、一緒にやろう」と打てば響くように応えてもらいたいんや。」

わしは昔、講演をした時、終わってから、小学生に「おじさん、どうして戦争が起きるの」と聞かれたことがあった。不意打ちをくらったわしがとっさに答えたのは、「人間の中には戦争で金儲けしようとする奴がおるからや」というのやった。ベトナム戦争のさなかに、嘉手納米軍基地で働いていたひとりが私にこう語ってくれたことがあった。学生アルバイト料（金）がベラボーに高いので処理した死体を冷蔵庫に入れる仕事をしたけど、死体に向きあう事に耐え切れず一週間で辞めたと。特注の大型冷蔵庫が日本製である事を知って、戦争と平和の大義の裏にある現実を思い知らされ衝撃を受けた。

「わしらは本当の事を知らされとらん。それは今も変わらん。沖縄はあらゆる戦争を拒否する。日本はアメリカと一緒になって戦争するような国になったらアカン。今が正念場や。今、ここで憲法9条を手放したら、あとは転げ落ちて行くだけや。わしにはそれが見える。今が踏ん張りどころや。絶対に踏みとどまらなアカンぞ。」

最後に、これだけは言うておきたい。

「日本はなぜいつまでたっても日米地位協定の改定が出来ないのか。それは、今、ロシア、ウクライナ戦争でよく聞くNATOとの関係、つまり軍事同盟関係がある。外務省は、基地を認める以上、相手国（米国）の権利を認めるのは当然だといっておる。日本が地位協定の改正に手をつけないのはNATOに大きな影響を及ぼすからだというわけや。」

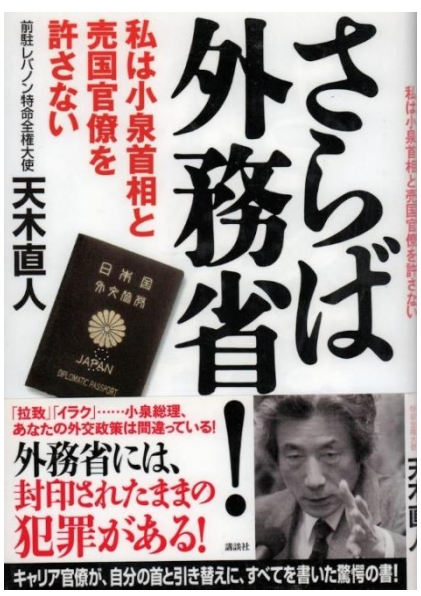
だが沖縄側から見れば、いま復帰五〇年の節目にあたり、この問題が浮上したのだが、その前に返還に伴う基地の後始末のための費用を、実際は日本政府が支払ったのに、米軍が支払ったとして国民を欺いたことを、毎日新聞の西山太吉氏がリークした事件で、佐藤栄作首相はノーベル平和賞を受賞した。西山氏は職を失う。そもそも五〇年前の返還はとんでもないスキャンダルだった。国民は忘れてしまったのであろうか。

沖縄側から見れば、本土復帰によって基地負担が六〇パーセントから七〇パーセントに増える事を強要された。それによってますます、沖縄は甚大な人命、人権の被害を被って来た。米軍による事件・事故はほとんど泣き寝入り。一九九五年の少女暴行事件の翌年、わしの知人の息子、海老原鉄平の米軍車両事故の裁判に関わって、とんでもない事実をわしは知ることになった。それは沖縄の防衛局から大阪の鉄平君の父親に伝えた言葉。「弁護士を立てないでほしい。もらえるお金ももらえませんから」と。まさに脅迫である。それでも裁判に訴えて、判決は米軍側の有罪となった。しかし、慰謝料の支払額は米軍側が決める。日本と米国政府で負担割合は6対4である。

フィリピン政府と米国政府の間では地位協定の改善は五年ごとに行う事で合意している。米軍の撤退（一九九二年）の前まで、その合意は実施されていた。改善条項の中には軍用地代の引き上げが含まれた。しかしこの日本では、土地は無料で提供（すなわち地代は日本政府が支払う）。この違いに、日本政府と沖縄行政はどう向き合って来たのか。今年は本土復帰五〇周年にあたり、地位協定改正問題が持ち上がったが、あっという間に消えた。地位協定の改善が進まないのは、わが沖縄側にも大きな責任がある。情けない。

「沖縄のことはウチナンチューが決める」

このことばは、わしの前原高校の後輩である元衆院議員照屋寛徳の遺言となってしまったが、県民はこれにどう応える事ができるだろうか。」



現代が学べる　志　成　館